

昭和12年12月1日（水）

昨夜の飯を温めて頂く。四十五分出発、バスに乗らず猶十分を待合わす。柿15、局員一名五ヶづつ、及びビスケは巖に、永江氏にフクオカシ持参。朝まで降雨、道多少悪し。中津にて降雨の模様なし。午後より降り五時頃歇む。巖途中まで悦子連れ迎ひに来る。風呂沸く。湯タンポ、余の為に配置呉る。其の為便所に起きず。十時まで新聞を見、寢床。

昭和12年12月2日（木）

長靴にて出勤。初めてストーブを使用す、暖かになる。ラジオ無料据付け得ることとなる。試みに永江氏のものを持来し据付く。速達に無封を扱うことに対し、本局に注意す（是れは三日、余の誤解と分かる）。ラジオ調節の為、六時までかかる。巖が待居たるを想ひ急ぎ飯れば、巖飯宅し居らず。朝吹氏宅にて馳走になりたる由。夕飯を一緒に済ます。風の為、道路乾燥す。

昭和12年12月3日（金）

朝より風強く曇りなるも、陽の射すこともあり。和博も共に闇無神社より墓地に出て一巡し、八時五十分帰り、出局す。便覧附録訂正す。向上誌代支払う。五時退局。降雨小降りに付き、洋傘心配さるるを断り飯る途中、殆ど歇む。山形より当地に移転し来たりし奥某氏より、ラジオ機械設置場所変更請求ありたる旨、巖に通知、明日手続き方注意す。十時寢床。

昭和12年12月4日（土）

五時起床の際、降雨。出勤頃降り続く、十時頃より歇む。

時々陽射しあり。例により午後一時二十分近く出発。長靴の俣、和傘は局に差措く。回数券残り二枚、往路一使用せし、余す処一枚。五時二分帰宅。久子は水曜日直方行き、爾来数日、結婚式（好子氏）に列し、月曜日頃帰るらし。湯タンポ破損修理に澄子使いせしも、戻りて来る。余代わりて行き、簗島局の筋向かいに捜し当て、十銭にて修理し呉れたり。販るさ林檎20銭、蜜柑15銭求め持参。早速湯煖房を作り貰ふ。

昭和12年12月5日（日）

風寒し。十一時過ぎ、澄子を促しコートを買いに連れ行く。岩田屋、松屋、玉屋を覗る。玉屋の50銭均一にて村田氏父子に会ふ。余が中津に移転せしものと信じ居れりと謂ふ。余の家に連行せんとしたるも不可とし、別に機会あるべきを以てせられたるを以て別れて、50銭にてスリッパ二足を求め販る。此朝中尾氏より書面あり。次いで貢氏送り越しの黒潮二缶、到着。藁5銭にて二把を求め、灰を作り文化火鉢に入れる。

昭和12年12月6日（月）

朝まで風強かりしも次第に風ぐ。時々陽射しあり。新聞を見て十時頃藁灰を作り、午後より手紙書きに終始す。久子、夜に至り飯塚より山田さんを連れ来る。久子同氏の家に二泊せし由なり。九時を過ぎ、ニュースを終えて手紙出しに行く。皆寝て居りしも其の儘、無断にて出掛く。此の日は福岡放送局開設五周年記念にて、八時頃より、地方色一杯の催物ありて賑やかなりし。夜、甚だ寒し。

昭和12年12月7日（火）

久子をして73回勸債臨時債還三枚に対し、通帳に登録方請求せしむ外、二十五円即時払ひし、澄子に貳拾五円を与ふ。澄子は今少し多額を貰わるる積もりに思ひ居りしと云ふ。今朝可なり寒気強かりし。久子山内さんと外出。午後二時頃帰宅。明日の準備、法規類取出す。中尾氏に手紙、三時に出す。

昭和12年12月8日（水）

昨夜久子夕食後、山田氏と活動写真に行き十一時頃帰宅。余は本朝定時起床。七時十五分朝食、四十五分仕度して五十分出発。巖へ柿一籠持行く為、余の法規類の包みは次回に譲る。駅着十分前の八時なりし、中津に着せしに、迎えに出て居る筈の巖来て居らず。不得已、小浦町まで籠を持行く。午後に至り巖局に来る。乃ち既に届けたることを告ぐ。五時帰宅して気の毒相に詫ぶ。別に何も責問せざりし。小浦町往復にて流汗、例により悦子を守りす。曇り、後晴れ。

昭和12年12月9日（木）

曇天。本町豊前銀行向かいのラジオ屋が巡回相談所たることは、昨夜悦子を負うて、此辺に視察に来たりたるに依りて知るを得たり。一応挨拶に行き、局に飯れば巖待ち居れり。乃ち巖に托して遣る。三時頃持来る。一向に出現せぬ。更に持行き再び持込む。出現せしも無闇にいじり廻した結果、再び出現せざるに至り三度持行く。四時を過ぎ居る。明日修理すとて其の儘差置き五時帰宅。風呂沸く、二度入浴す。十時寢床。此日午前中鶴居長来局。

昭和12年12月10日（金）

朝降雨甚だしからず。雨具なしに十時出局す。愛子の洗濯相当時間を要せし為なり。雨は降りし降らずし、消耗品現在高報告書、此の日にて結了せしむ。昨日暖かなりしも、此の日は相当冷気を催す。昨松本衛治氏の応召、久留米に入営の葉書により、二円餞別小為替にて発送せり。三時前後、室内暗く電灯を点す。午後五時帰宅。夜、しるこを頂き悦子にも食べさせて外出。市内を逍遙して七時近く戻る。

昭和12年12月11日（土）

朝も昨夜のシルコにて、晴れたり曇ったりの空を闇無浜神社附近を散歩し、八時三十分戻り、直に仕度して納豆の贈物は後刻巖持参のことに約し、巖より依頼の貯金百円を預かり駅に至り、回数券21, 60にて求め出局。恰度為替資金不足の機とし、巖よりの百円を預け入れ、之に依り公衆を俟たせずして済ましたるも、其の後、猶払渡しのみ続き大分待たせたるもありたり。併し資金請求するに至らず充実す。永江氏切手類請求に行き、午後0時過ぎ帰る。磯田氏来局。朝の間、晴れ曇り定めなき天候も次第に晴れ、午後一時前後快晴となる。巖朝の間ラジオ持参、取附けたり。其の際通帳手交す。定時発車、定時到着。南新町より徒歩、五時帰宅。桑原氏より葉書。明朝六時三十分、水鏡天満宮托鉢。午後七時新庄町1648青木佐一氏宅、座談会と。

昭和12年12月12日（日）

定時到着。柳原先生の奥様、嬢さんの二方見ゆ。山崎氏も後より来る。桑原氏、松尾氏も当然ながら早く来たり

居らる。七時半終了。神社参拝帰途に就く。久子百貨店行きを薦む。道子等活動に行く。久子の為に不得已出掛く、十一時なり。天神町四辻にて石橋先生を見掛くと、久子謂ふ。夫人と一緒に松屋よりの販りと見ゆ。岩田屋松屋を見る。久子二郎に贈るべく、フランス人形二円求め発送依頼す。ハンドバック道子のを求め、二時近く、鰯を市場より求めて販る。道子等五時販る。余は六時半出発。定刻青木氏宅に至る。氏は生綿を販売す。集まる者七名。桑原氏の講演の取次、余の光誌素読十時散会。

昭和12年12月13日（月）

快晴、布団類乾す。昨夜南京陥落提灯行列、各町名入りの大提灯を先頭に、軍歌を高唱して繰り出す。住吉神社内、火の涛（なみ）となる。今、午後一時より便所掃除を実行す。昨夜山崎氏より注意を受け、大いに慚愧したればなり。子供等は昨日済ましたる故、必要なしと謂ふも、構わず実施す。

昭和12年12月14日（火）

晴天なるも風強く、戸外は寒し。澄子道子大騒動を演ず。久子大声余を呼ぶ。炭取りは戸外に放擲され木炭は縁側より庭先まで散乱し居る始末、午後二時頃なりし。午後より手紙書く。夜久子葛湯を拵えて持来る。戦勝祝賀の夕べの放送を聞きて、十時寢床。

昭和12年12月15日（水）

晴天、寝巻を欄干に乾す。二郎より納豆、乾栗等を贈り越す。久子食欲に飽かせて喰ふ。夜八時久子就床、具合悪しと云ふ。十時頃医師を招く、痛み甚だしと云ふ。

余は格別意に介せず寢床。道子澄子火を起こして湯を沸かすやら、医師かかり行くやら、十二時頃まで費やす。注射に依りて治る。

昭和12年12月16日（木）

昨夜鯖飯の残りを食べ、納豆を巖に贈ることになり、風呂敷に収め持行く。快晴、局に到着。定時麻生氏来る。五時飯る。昨夜朝吹氏、棟上式に盛大なる祝賀の宴を公会堂にて張り、巖も招かれて遅くまで馳走になり、下村氏の家まで行き馳走になりたる由。悦子二三日来胃腸を害し、此日より起上がり居ると云ふ。夜食も注意して多く与ひず。風呂沸く、二回入浴。十一時四十分寢床。

昭和12年12月17日（金）

晴れ、風多く朝は霜白し。悦子を負うて外出。四十分余、八時過ぎ飯る。九時二十分出発、出局。十月分年金取扱費1,460交付あり。橋本久子氏昨年暮れ退職、朝鮮在住内地人に嫁し、先般主人召集の為、去る十一日郷里に帰省の由にて臨局。一時間に渉り咄す。五時飯宅。巖飯らず、夕食中帰宅。悦子を負うて外出三十分。眠りたるも下ろせば覚醒し、八時過ぎまで起きて居る。十時寢床。

昭和12年12月18日（土）

曇り、暖かにて凌ぎ良し。長靴にて出局。火気皆無にて過ごす。ストーブ火消えたる為なり。リノリウム油、一升一円にて求む。五時帰宅。雨降り初む。夜外出せず。十時寢床。二百円切手資金入。

昭和12年12月19日（日）

雨模様なりしが霽れる。少時外出。九時過ぎ出発、三十分着。監察員既に臨局し居れり。余挨拶後、庶務より初めて調査に着手、午前中にて終了。指示事項、四内二は局長に属す。曰く、身元引受人資産調書により、記録原簿登記未済と、公衆溜まりに腰掛けを備え付くることの二点なり。午後、茶話会を催して菓子四十錢馳走。0時30分一旦帰宅。愛子小豆を煮て居る。余に薦めん為、午後泊まれと云ふも、強いて皈福。発車十分遅る。晴天なりしが途中香椎附近降雨、福岡も道路は雨に濡れ、南新町より泥濘（ぬかるみ）なり。五時十分到着。既に夕食を済まし居る。予想し居らざる如し。

昭和12年12月20日（月）

曇り、陽の射すこともありし。久子をして年金受取らしめ、50錢澄子に払ひ、10錢久子に呉る。林檎10錢求めしむ。寒気頻りに加わる。二郎より久子に五円送金せし由。曩二十五円送るとのことなりしが、減額せしものなり。久子此日より床払へ、一週間程臥床。柿は皆無となり居り。九時四十分寢床。

昭和12年12月21日（火）

曇り。十一時余留守、皆デパート行き。作松屋より道子のコート新調のもの届きたる為め、一着に及びたるもの。此の間米屋と肉屋と来る。道子等二時過ぎ皈る。南京豆買い来る。鰯20錢チリにして食膳に上す。寒気強く寝巻を着用、股火す。裾、数力所焦がす。

昭和12年12月22日（水）

曇り、一時陽が射す。藁灰を作る、今日も寒し。小豆煮て、志留古造って貰ふ。夜九時半、曇天なりし天候は、概ね霽れ。ニュースを聞かず寢床。

昭和12年12月23日（木）

快晴。昨夜の御志留古を温めて貰ひ、夫れだけにて残りの林檎を食して出発。時間早かりし為、バスにも電車にも乗らず八時に駅着。日中暖かなり、手当交付。中村氏より三十円、小使いをして返戻し越さる。風呂沸く五時過ぎ、夕食事中なりし。余の出勤を、全く知らざりしものの如し。二回入浴。十一時半まで話す。

昭和12年12月24日（金）

夜半より降雨。朝に至りて歇まず、和傘を持来る。保険料八件、55,800銭支払う、別に百五十円払戻し、百円後藤寺大原に送金。五十円中25,800支出。此日、日中概ね曇り。夕方より降雨。福岡行きを見合わす。既に帰らぬものと思い居りたるらし。

昭和12年12月25日（土）

大正天皇祭。珍しく休日居りし。朝食後十一時近く悦子を負うて外出。売出の新博多町を見て、帳挟み二十七銭にて求め、局に是永氏留守し居るに渡して帰る。三時昼寝の間、新聞を見、ラジオ講座を読む。夜は巖理髪に行くに同行、三十分間遊び七時帰る。一時快晴、日向にて閲覧。夜は晴れたり曇ったり。九時四十分寢床。



昭和12年12月26日（日）

霰（あられ）。朝、藁灰造る。寒冷、藁灰の為に室内は暖かなり。九時半出勤。巖正午頃来局。葉書14, 00を朝吹氏と運び呉る。給料下渡し、切手に更に百円入金。寒冷なるも戸外は割合風なき為、寒からざる如し。為替扱う。五時半飯る。

昭和12年12月27日（月）

為替取扱忙しく、小包も亦多し。巖来たり色々手伝う。朝吹氏も居らる。局にて飯食ひ、巖は六時余と一緒に飯る。此の朝、風強く冷氣肌を刺す。痔疾血滴る。風呂場を朱に染む。然し着物を汚染するに至らざりし。手袋を穿ちて体操す。夕食後、子守りす。

昭和12年12月28日（火）

寒気前日より余程和ぐ。朝の間、子守り散歩。九時四十分出局。守谷氏病氣欠勤。正午近く切手請求に行き、竹折氏に現金払込む。215円の外に37, 20円を是永氏より受け、大急ぎにて本局行、其の儘帰局。巖宅に葉書運搬方依頼に行く。恰度朝吹氏も居る。一時半、一万枚を持参し呉る。切手もある筈故、巖を局に遣り、持来さしむ。印章昨日出来。臼杵氏に一元五十銭支払ふ。午後五時過ぎ帰る、巖と同伴。悦子守りし、巖と和博連れ、紙鳶（しえん）買いに市内に来たり六時戻る。次いで夕食、十時寢床。子供等九時近くまで起きて居る。

昭和12年12月29日（水）

此朝痔出血、寒からざるに此の事あり。巖焚火をして呉る。余好意を謝すると共に、風呂炊きに利用するを適當

と認むる旨、注意す。悦子を負うて外出、和博紙鳶挙げす。微風揚がらず、道路を駈走す。風の方角を顧慮せざる、おかし。九時過ぎ出発。守谷氏欠、扁桃腺炎の由。朝、二銭切手売切る。更に百円払戻し電話にて木下君に頼み、買受けの承諾を得、昨日通り自身本局に行き現金払込み、永松氏を呼び、旨を話して取扱方を頼みて引上げたり。朝吹氏、余の販福か否かを尋ぬ。巖に来局を求め、二時本局より切手取寄せ方依託す。余は午後一時、帰福の途に就く。小倉にて接続列車発車後とて、三時三十五分佐世保準急まで待合すこととなる。時間に余裕あり。宝町梶沼喜六氏邸を訪ふて資産調書を要求せん為なり。生憎、氏も夫人も不在、旨を婢僕に話し引返す。十分列車遅着。此日の列車事故は白衣の兵が原隊に販還する為、一等車を多数連結したる等に原因すると思ふ。五時半帰着。道子糯米を量り居る、明日餅搗きする由なり。夕餉は納豆と黒潮とにて済ます。炬燵に暖を採る。ラジオを聞き、十時寝る。

昭和12年12月30日（木）

大体に晴れ、敷き布団を乾かす。中尾氏宛書面は速達便にて発送、年賀状数通発送す。午後三時過ぎ餅搗き始まる。三十分弱にて一斗五升搗き上がる。一升の搗き賃九銭と云ふ。ガラ消費、夥（おびただ）し。五時夕食。餅、納豆及び煮たるもの。食後便所掃除す。昨夜四十円を子供等に与ふ。道、澄各十五円、久子十円。温泉旅行を余に勧む、余肯（がえん）ぜず。畜（ただ）に御金を費消するのみに非ざるなり。九時、皆風呂行き。十時寝床。

昭和12年12月31日（金）

曇り、藁灰作る。朝市場行、久子と一緒に何か肴でも求めんと欲せしなり。雑踏の為め、狭き小路の市場は押され押されて前進する有様。スピーカーは懷中物御用心を注意す。成程と気が付き、蝦蟇口を握る。河岸沿いに七五三縄（しめなわ）、其の他、迎春用意の農工品陳列陣を布かる。何もかも高価にて手を出し兼ねぬ。好物の肴類も遂買わずに、櫛及び三宝を求めて帰る。澄子と久子と午後、活動悦ちゃんを見に行く。日の射すこともなく割合に寒からず。古外套を出し膝に纏ふ。夕方風呂に行き湯札を買ふ。従来十枚で三十三銭なりしが、三十八銭となり高値となる。但し入浴料は一回四銭にて変わりなし。髯剃りして販る（五十銭澄子より借用、是れは湯札代）。十一時寢床。